安曇野検定準備講座　第2回　7月21日(木) 19:00～20:30

山の日制定記念　「一山百楽」田淵 行男

田淵行男記念館 館長　斉藤 昇三

1 はじめに
「一山百楽」

2 田淵行男の生涯　年譜から

3 残してくれた書物から

4 山岳写真

5 昆虫生態研究
・高山蝶
・細密画

6 雪形研究

7 田淵行男記念館

8 おわりに
「この地史の落とし子たちに安らかな旅をつづけさせねばならぬ」

資料１

一 山 百 楽　私の山旅決算書

＜山の手帖　田淵行男写真文集　1987年　朝日新聞社　発行＞から抜粋

たとえば登ろうとする山を選ぶにしても、同じことなら初めての新しい山がよい。未知の峰には新しい出合いがあるはずだと、その点に強く惹かれる人もある。一方にはまた、どこがそんなに面白いのか、飽きもしないでよく登れたものと、誰もがあきれるほど一つの山へ集中する人もある。

どちらにしても人それぞれの好みによることで、どちらでなければならぬということではなさそうに思われる。それぞれの登り方にはそれぞれの味わいというか、楽しみがあるはずだから。

私の場合はその二つの型のどちらかというと明らかに後者の方で何度でも登って行く方である。別の言い方をすれば集中型というか、求心型、或いは内向型ともいえる流派に入るであろう。

といっても、もとからこの主義で押し通してきたわけではなかった。若い頃の一時期には旺盛な好奇心のせいもあり、むしろ未知な山に憧れ、新しい頭峰を漁って登った覚えがある。

しかし、私の場合ひと通り目ぼしい山を登ってしまうと、自然にその中の特定な山へと集中していった。

（途中　略）

ところで私の場合、山への傾倒は先に述べたように博物誌的な要因に基づいているが、自然科学の分野は画業の世界とちがって一回目で勝負というわけにはいかぬようで、結局後の千回見つめる方途に拠るより他はなかった。そんなわけで知らぬまに一つの山に二百六回登るという記録を作ってしまったが、その一回一回は決して同じ常念ではなかった。何か必ず新しい未知との出合いがあったし、一回ごとに必ず新しい観照（註：主観をまじえないで物事を冷静に観察 して、意味を明らかに知ること。）が生まれた。仮に何もなかったように見えてもそれはそれなりに山の真実につながる貴重なデータと考えられる、価値のあるゼロであった。

そのようにして、どうにか私が念願の本州の高山蝶九種の生態を曲がりなりにも究明できたのも、私の堅持した一山集中主義の山行がもたらした成果であったように思われる。いわばがむしゃらに入れあげた十五年の年季がものをいったのであろう。

マチス（註：フランスの画家）の言葉にあるモチーフ千回とはおよそ程遠い、中途半端なところを停滞徘徊しているというのが実状であるが、一山集中主義を変えようなどとは夢にも思わない。それどころか独りよがりの「一山百楽」を標榜（註：主義・主張などをはっきりと掲げ示すこと。）し、気のおけない若い山仲間連中を煙に巻いている。

1986年6月4日　81回の誕生日に

（註：補足した箇所）

資料２　　田淵行男　関連　略年譜

年号	年齢	主なできごと	世の中
1905（明治38）年	0 歳	6月4日、大山を望む鳥取県日野郡黒坂村（現日野町）にて、警察官田淵吉弥（きちや）と妻阿又（おゆう）の次男(第４子)として、生まれる。以後、鳥取県内を移り住む。	日露講和条約締結
1909（明治42）年	4 歳	母阿又、死去。	
1911（明治44）年	6 歳	日野郡溝口尋常小学校入学。父、足立よしと再婚。	
1913（大正 2）年	8 歳	日野郡黒坂尋常小学校第２学年編入学。この頃、ジャコウアゲハの幼虫と出会い、後々蝶と生涯を共にすることになる。	
1914（大正 3）年	9 歳	実兄の行實（ゆきみ）の捕虫網を借りて蝶を採集するが、オオムラサキを採り逃がす。	第一次世界大戦
1918（大正 7）年	13 歳	父吉弥、死去。継母よしが実家に帰る。台湾の台北市に住む実母の親戚一家に預けられる。ここで亜熱帯の蝶に出会う。	
1919（大正 8）年	14 歳	継母よし、死去。叔母スイらと共に台湾から帰国し、東京の滝野川に移住。神田の錦城中学編入学。	
1920（大正 9）年	15 歳	学習院中等科助教授だった兄・行實の一家にひきとられ、学習院官舎に移住。	
1923（大正12）年	18 歳	この頃より、蝶の写生「写蝶」を本格的に始める。「写蝶」は田淵の造語で写経にちなむ。	関東大震災
1924（大正13）年	19 歳	4月、東京高等師範学校（後の東京教育大学、現・筑波大学）博物科に入学。	
1925（大正14）年	20 歳	博物の記録図は描く手間がかかりすぎるとの理由で、ドイツ製カメラを購入し写真撮影を始める。	
1927（昭和2）年	22 歳	高等師範の夏休みに「ギフチョウ」の研究が目的で、岐阜県の名和（なわ）昆虫研究所（現・名和昆虫博物館）を尋ねる。	『岩波文庫』刊行開始
1928（昭和 3）年	23 歳	3月、東京高等師範学校卒業。4月、富山県新湊（しんみなと）町の県立射水（いみず）中学校（現・県立新湊高等学校）の教職に就く。教壇に立つ生活が始まる。叔母スイの娘、山村日出子と結婚。	
1930（昭和 5）年	25 歳	撮影した風景写真が初めて『アサヒカメラ』に掲載。9月、東京府立第二高等女学校（現・都立竹早高等学校）及び東京府立女子師範学校（現・東京学芸大学）兼務の教諭となる（1937年まで）。在任中には、学業のかたわら、生徒を引率し北アルプスや近隣の山の集団登山を指導。	
1937（昭和12）年	32 歳	東京府立第二高等女学校及び東京府立女子師範学校を辞職。大阪で叔母スイの進学塾を手伝う。その後、元同僚の紹介により東京で理科教材のセールスをする。	
1938（昭和13）年	33 歳	田淵を含め3人が350円ずつ出資し東京本郷で「日本学術写真社」を興す。	国家総動員法
1939（昭和14）年	34 歳	6月、独逸学協会中学校の博物学教師となる（1943年まで）。同校では生物部と写真部の活動を指導し、また山岳部の発足を導く。	第二次世界大戦
1943（昭和18）年	38 歳	独逸学協会中学校を辞職。日本映画社教育映画部製作課教育映画係に入る。	
1945（昭和20）年	40 歳	東京方面大空襲によって、田淵の家は「建物疎開」の指令をうける。山案内人の紹介で南安曇郡西穂高村大字牧（現・安曇野市穂高牧）に疎開。フリーで理科教材の制作、撮影などを手掛ける（1961年まで）。	終戦

1946（昭和21）年	41 歳	6月、常念乗越にて、高山蝶「タカネヒカゲ」の幼虫発見。山麓の豊かな自然の中に生を営む「アシナガバチ」「ギフチョウ」「ヒメギフチョウ」の生態研究も進める。「日本産蝶類図説」作成を目指し、精力的に細密画を描き始める。	日本国憲法公布
1949（昭和24）年	44 歳	チョウの生活史（生態）解明に関心を持ち、成虫だけでなく卵、幼虫、さなぎの細密画も描くようになる。	
1950（昭和25）年	45 歳	『科学朝日6月号』にヒメギフチョウの卵と幼虫の写真掲載。『アサヒカメラ7月号』の表紙と特集に3枚の組写真「夏の山」掲載。『アサヒカメラ12月号』に国際写真サロン入選作品として「初冬の浅間」発表。	朝鮮戦争
1951（昭和26）年	46 歳	高山蝶の生活史解明に本格的に取り組む。初めての著作『 田淵行男山岳写真傑作集』（アサヒカメラ臨時増刊　朝日新聞社）出版。戦後復興に大わらわの社会へ、さわやかな贈り物となる。	サンフランシスコ平和条約
1952（昭和27）年	47 歳	『わが山旅』（誠文堂新光社）出版。	
1954（昭和29）年	49 歳	この頃から、蝶の細密画を描かなくなる。	
1955（昭和30）年	50 歳	アシナガバチの巣に興味を持ち、観察を始める。	
1957（昭和32）年	52 歳	『ヒメギフチョウ』（誠文堂新光社）刊行。日本昆虫学会創立40周年記念展「世界の昆虫展」に蝶の細密画147点と高山蝶生態写真114点を出品。	
1958（昭和33）年	53 歳	『尾根路』（朋文堂山岳文庫 朋文堂）、『山』（世界写真作家シリーズ 平凡社）出版。	
1959（昭和34）年	54 歳	数百回にも及ぶ、北アルプスの踏査が実り『高山蝶』（朋文堂）出版。英文を併記した蝶類の生態研究書として海外からも高い評価を得る。	
1960（昭和35）年	55 歳	ヘリコプターの農薬撒布により、アシナガバチの観察地が壊滅する。独自の設計により、「黄色いテント」ができる。その形態とテント地の黄色が異彩を放ち、山行の人々の注目をあびる。『高山蝶』で日本写真批評家協会賞（特別賞）、富士フォトコンテストシリーズ富士プロェッショナル写真賞（自由写真最優秀賞）受賞。	ベトナム戦争
1961（昭和36）年	56 歳	ガイドブック『槍・穂高・常念岳』（実業之日本社）出版。常念山麓を離れ、北アルプスを一望できる豊科町南穂高（見岳町）（現安曇野市豊科南穂高）へ転居。	
1962（昭和37）年	57 歳	『アシナガバチの生態　小さなラガーたち』（講談社）出版するが不備があり、印刷版元に販売中止の申し入れをする。	レイチェル カーソン『 沈黙の春』出版
1964（昭和39）年	59 歳	講談社のカラー百科『ちょう』（共著）出版。深田久弥著『日本百名山』（講談社）に、山岳写真「新雪の穂高岳」と「常念岳」を提供する。『私の山岳写真』（東京中日新聞社）出版。	東京オリンピック
1966（昭和41）年	61 歳	『北ア展望』（朝日新聞社）出版。	
1967（昭和42）年	62 歳	日本写真批評家協会賞（作家賞）受賞。『山の時刻』（朝日新聞社）出版。	
1969（昭和44）年	64 歳	『山の季節』（朝日新聞社）出版。	宇宙飛行士月面に到達
1970（昭和45）年	65 歳	この頃より、パーキンソン病の兆候が徐々にあらわれる。	
1971（昭和46）年	66 歳	『山の意匠』（朝日新聞社）出版。松本市芸術文化賞を受賞。北海道の高山蝶の調査開始（1977年まで大雪山・羅臼へ踏査20回）。	
1972（昭和47）年	67 歳	写真絵本『ぎふちょう』（千趣会）出版。	沖縄日本復帰

1974（昭和49）年	69 歳	『ギフチョウ・ヒメギフチョウ』（講談社）、『麓からの山　浅間・八ヶ岳』（朝日新聞社）出版。	
1975（昭和50）年	70 歳	田淵を主人公の父親役のモデルにしたＮＨＫ連続ドラマ「水色の時」が放映(4月～9月)。『日本アルプス』（国際情報社）出版。	ベトナム戦争終結
1976（昭和51）年	71 歳	環境庁（現・環境省）から自然保護思想普及功労賞授与（環境庁長官表彰第１号）。我が国の自然保護運動がようやく認知された記念碑的受賞。受賞の日、田淵は大雪山にてダイセツタカネヒカゲの幼虫を探査していた。『安曇野』（朝日新聞社）出版。	
1978（昭和53）年	73 歳	『大雪の蝶』（朝日新聞社）出版。この頃、体調不良の原因がパーキンソン病と判明、闘病の中で次々と著書をまとめていく。	
1979（昭和54）年	74 歳	長野県知事表彰（芸術）受賞。『日本アルプスの蝶』（学習研究社）出版。豊科町郷土博物館（現安曇野市豊科郷土博物館）に田淵行男室が設置。「高山蝶田淵行男写真展」（豊科町郷土博物館）開催。7月20日、ヘリコプターで上高地から常念岳へ登る。夫人同行。206回目の常念登山。この日常念乗越で、羽化したばかりの「タカネヒカゲ」に会う。昭和21年、この蝶の幼虫を発見してから33年の年月が経っていた。これが最期の登山となる。	コンピューターを使ったインベーダーゲーム大流行
1980（昭和55）年	75 歳	『尾根路Ⅱ』（愛真出版社）出版。	
1981（昭和56）年	76 歳	『山の紋章　雪形』（学習研究社）、『北アルプス』（講談社）、『尾根路Ⅱ　普及改訂版』（同時代社）、資料集『田淵行男　山と高山蝶』（豊科町郷土博物館）出版。	黒柳徹子の『窓際のトットちゃん』大ベストセラー
1982（昭和57）年	77 歳	『安曇野挽歌』（朝日新聞社）出版。	
1983（昭和58）年	78 歳	蝶の細密画と文章で構成した『山の絵本　安曇野の蝶』（講談社）出版。日本写真協会賞（功労賞）受賞。	
1984（昭和59）年	79 歳	『山の絵本　安曇野の蝶　特装本』（講談社）出版。豊科町名誉町民（第1号）となる。（現・安曇野市名誉市民）	
1985（昭和60）年	80 歳	『山のアルバム』（講談社）、エッセイ集『黄色いテント』『黄色いテント　特装本』（実業之日本社）出版。	
1986（昭和61）年	81 歳	『山のアルバム　特装本』（講談社）出版。「山岳写真家・田淵行男の世界」（大町山岳博物館）開催。	バブル経済で地価狂乱
1987（昭和62）年	82 歳	『山の手帖』（朝日新聞社）出版。日本鱗翅学会から永年の蝶学界での功績に対し表彰。10月、タイワンアシナガバチの細密画を制作中に脳梗塞の発作を起こし、豊科赤十字病院へ入院。	
1988（昭和63）年	83 歳	「自然への讃歌　田淵行男展」（豊科町郷土博物館）開催。田淵の仕事の全分野にわたる大展覧会であったが、病床の田淵は遂に足を運ぶことができなかった。『アシナガバチ　日本産全種生態』（講談社）、『アシナガバチ　日本産全種生態　特装本』（講談社）を出版。	ソウルオリンピック
1989（平成元）年	83 歳	5月28日、「田淵行男記念館の建設を進める会」発足。5月30日、入院先の豊科赤十字病院において死去。享年83歳。6月11日、豊科町町民葬が執り行われ、豊科町名誉霊園に葬られる。	
1990（平成 2）年		7月7日、田淵行男記念館開館。	東西ドイツ統一
1995（平成 7）年		豊科町町村合併40周年・田淵行男記念館5周年記念「田淵行男の山」写真展開催。『山は魔術師　私の山岳写真』（実業之日本社）出版。「田淵行男　里帰り写真」展（伯耆国山岳美術館）開催。	地下鉄サリン事件

1996（平成 8）年		「ネイチャーワールド～地球に生きる」展（東京都写真美術館、豊科近代美術館）出品。妻の日出子が亡くなり、豊科の自宅が空き家になる。	
1998（平成10）年		「山を想う－田淵行男－」展（奈良市写真美術館）開催。「日本アルプス　はるかなる山々の写真展」（イタリア国立トリノ山岳博物館）出品。田淵行男記念館が（社）日本写真協会の第48回日本写真協会賞「文化振興賞」受賞。『日本の写真家 11 田淵行男』（岩波書店）出版。	長野冬季オリンピック
2001（平成13）年		田淵行男記念館開館10周年記念「第1回田淵行男賞　写真作品公募及び巡回展」開催。	9・11同時多発テロ
2004（平成16）年		田淵行男生誕100年記念「田淵行男作品展」（鳥取県日野町文化センター）開催。	
2005（平成17）年		田淵行男生誕100年記念・田淵行男記念館開館15周年記念「第2回田淵行男賞　写真作品公募及び巡回展」開催。生誕100年記念「ナチュラリスト・田淵行男の世界」展（東京都写真美術館）（岡田紅陽写真美術館）（札幌市写真ライブラリー）開催。『ナチュラリスト・田淵行男の世界』（山と溪谷社）出版。	豊科町・穂高町・明科町・三郷村・堀金村が合併して安曇野市発足
2010（平成22）年		田淵行男記念館開館20周年記念「第3回田淵行男賞　写真作品公募及び巡回展」開催。	
2011（平成23）年		田淵の旧宅（豊科南穂高）から、未発表や所在不明だった蝶や昆虫の細密画約250点が見つかる。	東日本大震災
2012（平成24）年		豊科近代美術館開館20周年記念　田淵行男記念館・安曇野市豊科近代美術館共同企画「科学か、芸術か？　田淵行男　細密画の全容」開催。	
2013（平成25）年		「第4回田淵行男賞　写真作品公募及び巡回展」開催。	
2014（平成26）年		死去の直前まで住んでいた豊科南穂高の田淵邸跡地に記念碑建立。「この地史の落し子たちに安らかな旅をつづけさせねばならぬ」（『高山蝶』から引用）の一文が刻まれている。	
2015（平成27）年		『田淵行男が愛した安曇野　田淵行男作品集』（田淵行男記念館）出版。NHKBS プレミアドラマ『蝶の山脈　安曇野を愛した男』放送。	
2016（平成28）年		安曇野市制施行10周年記念・田淵行男記念館開館25周年記念「第5回田淵行男賞　写真作品公募及び巡回展」開催。　「ナチュラリスト田淵行男の世界　博物学者が見た南アルプス」（南アルプス市芦安山岳館）開催。　特別展示「田淵行男　高山蝶細密画」（東御市丸山晩霞記念館）開催。　雑誌 山と溪谷 6月号「安曇野の雪形　田淵行男『山の紋章　雪形』より」掲載。　雑誌 岳人8月号「田淵行男と高山蝶」掲載。	

＊　本年譜は、『田淵行男作品集Vol. 1』（田淵行男記念館　1993年）、『生誕100年記念　ナチュラリスト・田淵行男の世界』（東京都写真美術館　2005年）、『安曇野のナチュラリスト　田淵行男』（近藤信行著　山と溪谷社　2015年）所載の年譜を参考に作成した。

資料３　　田淵行男　関連　著作

（１）著者　田淵行男（共著も含む）

1	田淵行男　山岳写真傑作集（ｱｻﾋｶﾒﾗ臨時増刊）	朝日新聞社	1951（昭和26）年
2	わが山旅（写真集）	誠文堂新光社	1952（昭和27）年
3	ヒメギフチョウ（生態写真集）	誠文堂新光社	1957（昭和32）年
4	山（写真集）	平凡社	1958（昭和33）年
5	尾根路（写真集）	朋文堂	1958（昭和33）年
6	高山蝶（生態写真集）	朋文堂	1959（昭和34）年
7	槍・穂高・常念岳（ガイドブック）	実業之日本社	1961（昭和36）年
8	アシナガバチの生態 小さなラガーたち（生態写真集）	講談社	1962（昭和37）年
9	ちょう（写真絵本　共著）	講談社	1964（昭和39）年
10	私の山岳写真（撮影手引）	東京中日新聞社	1964（昭和39）年
11	北ア展望（写真集）	朝日新聞社	1966（昭和41）年
12	山の時刻（写真集）	朝日新聞社	1967（昭和42）年
13	山の季節（写真集）	朝日新聞社	1969（昭和44）年
14	山の意匠（写真集）	朝日新聞社	1971（昭和46）年
15	ぎふちょう（写真絵本）	千趣会	1972（昭和47）年
16	ギフチョウ・ヒメギフチョウ（生態写真集）	講談社	1974（昭和49）年
17	麓からの山　浅間・八ケ岳（写真集）	朝日新聞社	1974（昭和49）年
18	日本アルプス（写真集）	国際情報社	1975（昭和50）年
19	安曇野（写真文集）	朝日新聞社	1976（昭和51）年
20	大雪の蝶（生態写真集）	朝日新聞社	1978（昭和53）年
21	日本アルプスの蝶（生態写真集）	学習研究社	1979（昭和54）年
22	尾根路Ⅱ（写真集）	愛真出版	1980（昭和55）年
23	北アルプス（科学図鑑シリーズ）	講談社	1981（昭和56）年
24	山の紋章　雪形（記録写真集）	学習研究社	1981（昭和56）年
25	田淵行男　山と高山蝶（パンフレット）	豊科町郷土博物館	1981（昭和56）年
26	尾根路Ⅱ　普及改訂版	同時代社	1981（昭和56）年
27	安曇野挽歌（写真文集）	朝日新聞社	1982（昭和57）年
28	山の絵本　安曇野の蝶（写生図と文）	講談社	1983（昭和58）年
29	山の絵本　安曇野の蝶　特装本	講談社	1984（昭和59）年
30	山のアルバム（写真集）	講談社	1985（昭和60）年
31	黄色いテント（文集）	実業之日本社	1985（昭和60）年
32	黄色いテント　特装本	実業之日本社	1985（昭和60）年
33	山のアルバム　特装本	講談社	1986（昭和61）年
34	山の手帖（写真文集）	朝日新聞社	1987（昭和62）年
35	アシナガバチ（生態写真集）	講談社	1988（昭和63）年
36	アシナガバチ　特装本	講談社	1988（昭和63）年
37	山は魔術師　私の山岳写真（写真文集）	実業之日本社	1995（平成 7）年

（２）田淵行男関連書籍（現・購入可）

1	日本の写真家11　田淵行男	岩波書店	2,500円＋税	1998年
2	田淵行男が愛した安曇野　田淵行男作品集	田淵行男記念館	2,000円	2015年
3	安曇野のナチュラリスト田淵行男　近藤信行著	山と溪谷社	2,600円＋税	2015年